

「家がいいね」 第153号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2017.2.1



松阪市伊勢寺の路傍に、道祖神のように置かれた石像ですが、春の訪れを待っているようでした。まもなく節分、花の便りも待ち遠しい日々ですね。

樹木を友人だと考えたことがありますか。

「最初の質問」に答えます。逢いたいのが友人。人を超えた歴史を知るなら尚更です。

写真は鈴鹿の長太（なご）の大楠です。20代から見続け、車窓からだけでなく、訪ねて手を触れたことがあります。



千年を超える命が樹全体から伝わってきました。

覚悟のし方

珍しく家内の買った本に手を伸ばし読んでみました。今や93歳の女性作家の佐藤愛子さんが、正面から怒り、自らを含めて嘆く痛快な本です。標題の一節を紹介します。



私の「覚悟」は「一生意志を曲げない覚悟」ではなく、長い年月の間にやがて来るかもしれない失意の事態に対する「覚悟」である。たとえ後悔し苦悩する日が来たとしても、それに負けずに、そこを人生のターニングポイントにして、めげずに生きて行くぞという、そついう「覚悟」です。それさえしっかり身につけていれば、何があっても怖くない。私はそんなふう生きて来た。そうして今の、九十二歳の私がある。

在宅は物語る

1月12日「地域包括ケア啓発講演会」の様子を、関連部分のみ簡単に報告しましょう。

いい人生を過ごさせてもらいましたよ

先ほど、日の出を待っていたように、その方は逝かれました。自室に辞世の句を貼っておられました。勢田川のたたずまいと対岸の桜を「よなく愛され、昨年に肺がんを発症しても、自分の生活と折り合う医療を選択されました。息苦しさを気遣う周囲に「大丈夫！」とも言われ、見事でした。

146号の記事です。享年92歳の方のご遺族の協力を頂き、ケアマネ・訪問看護師と共に、市民の方々の前で全経過を対談として振り返りました。病を得るまでの人生が岐路での決定に大きく影響しています。戦前の台湾で生まれ終戦を20歳で迎え九州に引揚げられました。結婚後に近い家族を次々失いました。息子さん夫婦の住む伊勢に、食料品店をたまたみ平成元年に引っ越されてからは、この街での生活と人付き合いに思いつきり飛び込んで生きてこられました。

「街川を桜吹雪は越え来たり いぬをつつめり われをつつめり」

肺がんが進行しても好きな読書のため白内障手術を敢行されました。



「世話をかけるけどよろしくね」が、この方の在宅での生き方で、こちらが勇気付けられました。「迷惑をかけない」ように言わず縮こまる生き方が一般常識の世で、響く和歌も紹介し終わります。**「あい容れぬところのある友に ふうっと電話したくなる午後」**

休診日のお知らせ

☆**ホームホスピス「あいや」**
(伊勢市岡本3丁目) 開所式のためお休みします
3月11日(土)
午前・午後とも



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薊町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可